

# 金沢市立明成小学校

## [はじめに]

本校は、金沢駅近くに位置し、平成7年4月に旧瓢箪町小学校と旧此花町小学校が統合して開校した。全校児童は247名(5月1日現在)、職員は30名である。

学校の北側には浅野川が流れ、西側には大きな境内をもつ安江八幡宮や東別院、西別院の他、由緒ある寺社が数多くある。そのため、四季を通じて子ども達が自然を目にする事が出来る。また、ふらっと通りや安江町商店街など歴史と伝統を重んじながらも新しい感覚を取り入れた店舗が軒を連ねる商店街があり、地域の方々は郷土愛に満ちている。

2011年度にユネスコスクールの認定を受け、環境や文化、福祉、国際理解などをテーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

## たくさんの絆をつなごう！

### 1 ユネスコスクールとしての取組

#### ・1年生「きせつとなかよし」

春から秋にかけて一人一鉢でアサガオを大切に育てた。花が咲くと色水遊びをしたり、秋になるとつるでリースを作ったりして楽しんだ。種から育てた草花が季節で変化していく様子を観察し他の草花にも関心を持つことができた。

2学期は秋見つけに近隣の公園に出かけ、色々な秋の自然物を見つけた。見つけた秋の自然物で「あきまつり」を計画し、自分たちが楽しみながら様々な遊び

を考えた。友達に楽しんでもらうためにはルールや場の

設定も必要であることに気付き、グループで工夫しながら取り組むことができた。

秋祭りには2年生を招待し、人に楽しんでもらえた満足感を味わうことができた。

また、春から栽培していたさつまいもを収穫し、ふかしいもにして食べたり、つる

で綱引きやなわとび、小芋でいもばんをして遊んだりして秋を満喫して楽しむこ

とができた。



#### ・2年生「町をたんけん大発見」

1学期には、自分たちの町を探検して、自然(彦三緑地の樹齢400年の大木)・お店(加賀毛針や床屋)・名所(東別院や安江八幡宮)などに会い、地域へのつながりを感じ、愛着をより深めることができた。また、2学期には、地域に住んでいる方々との交流活動を行い、公民館と学校で交流会をひらいた。最初は公民館で地域の方と一緒に「ランプシェード」を作成した。子どもたちは、公民館で同じ机にすわった地域の方と一緒に、ランプシェードの色合いやデザインを話し合ったり、難しいところを教えていただいたりしながら、楽しく関わることができた。

その後、地域の方々を学校へお招きし、交流会を行った。子どもたちで企画・運営し、司会進行も務めた。地域の方々と楽しく仲良く関わるにはどうしたらよいかを考えて、生活科で作成したおもちゃを取り入れた。交流会を通して、地域のあたたかさに気づき、明成校区の良さを改めて実感することができた。

#### ・3年生「伝統を学ぼう」

1学期は、氷室の日を取り上げ金沢の伝統行事に目を向けた。同時に氷室まんじゅうを食べ、金沢に根付く和菓子文化を新聞で発信した。2学期には昨年同様安江八幡宮の獅子舞について詳しく調べた。3学期は<なぜ金沢の和菓子はこんなに人気なのか>を考える中、武士だけでなく町人にまで広く愛された『茶道』が大きな要因であることに気がついた。そこで、校区にお住まいの茶道の先生をお招きして茶道体験をした。本校には明成の間という茶室もあり、そこで行ったお茶会はく



つろぎの中にも厳粛な空気も感じられ、どの子にも金沢の伝統文化を強く印象付けることとなった。金沢に茶道が広まった背景や作法、道具なども調べ、2月に学習発表会を開き全校生徒や地域の方に発信できた。

#### ・4年生「金沢の魅力発見！ひょうたん・偉人・加賀象嵌」



校舎1階のグリーンカーテンとして、アサガオとヒョウタンを栽培した。5月上旬に苗を植え、登校後や休み時間に水やりや草抜きの世話をした。夏休み中も当番を組み、水やりや草抜きを続けた。土曜日と日曜日には、地域のグリーンボランティアの方と一緒に、栽培を続けた。その成果として、アサガオとヒョウタンの葉が茂り、1階理科室横と玄関には影ができ、グリーンカーテンとして室温を下げる効果が見られた。秋には、たくさんのヒョウタンの実ができ、ボランティアの方と一緒に収穫し、一人一人が人形や楽器作りなどを楽しんだ。

また、金沢の伝統工芸である加賀象嵌について調べ、地域の白銀師の方に教えていただきながら象嵌を体験した。実際に自分の目で見たり作ったりすることで、その技の巧みに気付くことができた。金沢の偉人についても各自が調べまとめることで、偉大さに気付いていた。

#### ・5年生「広げよう ボランティアの輪を」

「みんなの中で身近なボランティアといえば？」と質問したら、図書ボランティアと学校安全ボランティアの名前が挙がった。図書ボランティアは、月に1回朝自習の時間に本の読み聞かせをしてくださり、学校安全ボランティアは、毎日の登下校の安全を見守ってくださっている方々である。その方々にいろいろなことをインタビューして、図書ボランティア新聞としてまとめ、各クラスに配布した。そして、インタビューしたことを生かして1年生に本の読み聞かせをした。また、学校安全ボランティアについてのまとめたことを全校集会で発表し、感謝の気持ちを手紙に表したり、これからはっきり挨拶したりしようと呼びかけをした。そのことで、「感謝する会」が大変温かい会になった。身近なボランティアのことを調べ考えることで、これからの自分の生き方に少しでも影響を与えるものになったのではないかと思われた。

#### ・6年生「伝統工芸にふれていく(加賀毛針)・卒業式胸章づくり」

校区で加賀毛針づくりを传承されている、「目細八郎衛商店」の当主・目細勇治さんにご来校いただいた。地域の伝統工芸としての「加賀毛針」について、その歴史の経緯と伝統として受け継がれた内容、そして現在、日本全国から注目を浴びているということ、映像を通して紹介して頂いた。また、その長き伝統を受け継いでいくことに対する職人としての思いをお聞きすることができた。

全体に対して作り方を説明して頂き、その後は子どもたち一人ひとりにアドバイスを頂きながら、羽等の材料を使って胸章づくりを行った。子どもたちは自分の思い思いの材料を手にし、精一杯製作していた。完成したものを手に取り、または実際に胸に付け、卒業式の自分の姿を思い浮かべている様子が見られた。

## 2 成果と課題

各学年とも生活科や総合的な学習の時間を中心として、各教科での学びにつなげたり、広めたりしながら活動を進めていった。その結果、人や地域とのつながりを深めることができ、直接に体験しながら学びを積み重ねることができた。今年度も、活動の内容を全校に伝える場を持つことができた。さらに、地域の伝統工芸を学ぶことで、学びを実感し、身近に感じることも成果といえる。また、各学年の取り組みを掲示することで、学年間の交流をはかることができた。

今後の課題として、学校全体としての取り組みのさらなる共有化や人材の発掘、他校との交流、時数の確保などがある。今後もESDカレンダーの見直しを行いながら、他教科との関連をより一層深め、学びの力を伸ばしていきたいと考えている。